

# 理学療法の実際

埼玉県総合リハビリテーションセンター 市川 忠

## KEY WORDS

- 理学療法
- 運動
- LSVT
- 進行予防

## はじめに

わが国ではリハビリテーションに関わる職種として、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士がある。理学療法という言葉から、起立や歩行訓練などリハビリテーションの一部を連想する人も少なくない。しかし理学療法は、その英訳であるPhysiotherapyからわかるように、身体機能(physical function)全般の回復、改善を図る治療法である。ここでは、パーキンソン病(Parkinson's disease ; PD)に対して身体機能回復・改善を目的とする運動やリハビリテーション全般について述べることにする。

## I. PDにおける理学療法の目的

PD患者に対して理学療法を行う目的は主に2つに分類される。

第1の目的は、骨、関節、筋肉の機能維持である。PDでは、特徴的な姿

勢異常や歩行障害、また筋強剛や無動・寡動による運動範囲の運動量の減少が出現し、常態化する。

姿勢異常が常態化すると、首下がりによる後頸部筋群、体幹前屈による固有背筋群の筋力低下や伸長による筋損傷などが生じる。同時に脊柱の可動性も減少して、立位バランス不良につながる。また小刻み歩行による歩幅現象、筋強剛で足関節の可動域制限なども生じる。無動・寡動と筋強剛から肩関節、肘関節などの関節可動域制限もしばしば生じてしまう。また身体機能が低下することで、立位や歩行負荷が減少することで骨密度の低下を惹起しやすくなる。

以上のように、PDでは、二次的に骨、関節や筋の機能低下が生じるため、この予防の目的で、理学療法を行うこととなる。

第2の目的は、PDの疾患そのものの進行予防にある。運動やリハビリテーションにより神経保護物質が放出

Practice in physiotherapy.  
Tadashi Ichikawa (副センター長)